

嫌な世の中……

原田 隆二

「世界全体が幸福にならないうちに、個人の幸福はあり得ない」（宮沢賢治）とまで、聖人にはなり得ないが、真冬の寒空の下、石の上、土の上で寝ている人がいるのを知りながら、布団の上で寝られることを幸せだと思おう多くの人がいる。

2013年3月2日、冬の陽はすっかり暮れた19時、渋谷駅にほど近い美竹公園にはどこからともなく人々が集まってくる。その数100人余。

「仲間のみなさん、厳しい冬を何としても生きのびましょう。本日は差し入れのホットカイロとマスクがあります。また、前方の机で医師による医療相談もやっています。渋谷地区の行政と大資本が手を組んだ大規模開発による仲間の追い出しに抗議して……」ハンドマイクからの呼びかけは食事の準備ができた合図となって、人びとは粗末な厚ベニヤ板のテーブルにゆっくりと移動を始める。今日のメニューは鶏の胸肉入りおじや。空腹に支援者の立場を忘れ、急いで掻き込んだ私は危うく食道を火傷しそうになる。100人前の食事の予算は3000円という厳しさだ。野菜の多くは地元の八百屋から売れ残りを無料で貰ってくる。

「渋谷・野宿者の生存と生活をかちとる自

由連合」（通称「のじれん」）は毎週月曜日に新宿公園で、土曜日に渋谷・美竹公園で共同炊事（炊き出し）や見回りを約15年間にわたり行なっている。しかしこの3月からは、新宿の炊き出しが人員と資金の不足で休止になった。

渋谷駅周辺は、昨年4月に複合商業施設「ヒカリエ」が開業。今年春には私鉄・東横線と地下鉄・副都心線のドッキングが完了し、地上高架にあつた東横線ホームと百貨店の解体工事が始まり、さらに駅周辺の東京都の施設跡地（児童会館、都営アパート、青山病院）も、都と東急グループなど大企業との連携による再開発計画が予定されている。

招致運動中の東京オリピックの中心会場も国立競技場・代々木公園と渋谷である。3年前に渋谷駅前の宮下公園から多数の野宿者が追い出され、一昨年11月には野宿者が誰でも寝ることのできた集団野営の拠点である児童会館前が封鎖され、昨年6月11日に、やはり多くの野宿者の寝場所、食事の場所、集まる場所であった美竹公園と区役所地下駐車場が渋谷区によって突然フェンスで閉鎖され、7月30日には行政代執行という強硬的手段で美竹公園内の野宿者のテント、「のじれん」の共同炊事のための物資倉庫などが強制的に取り壊された。

このような強い都市再開発の流れとそれに伴う野宿者の排除によって、渋谷の野宿者は、寝場所どころか居場所さえなくなり、より厳しい状況、命の危機に常に直面する状況になっている。実際に今年1月14日の大雪の日には代々木公園で凍死者が出た。

安倍政権は年2%のインフレ目標を定めながら、生活保護の切り下げをするという。富める者がますます富み、貧しき者がますます貧しくなるそんな時代を許して良いのか？

貧困が社会の責任ではなく、個人の責任であるというところでもないでたらめがまかり通っているのか？ 何よりも人が優しさを失い、貧しく弱いものを見捨てる世の中が当たり前になっていいのか。

「疲れ果て、倒れ込むベンチを寝かせないように仕切り板を付け、最後の寝床の公園に柵をめぐらし夜間封鎖する」、渋谷に限らないが、そのような最低の行為を行政が積極的に行かない、それが通常、普通のことと殆どの人が黙認している。お前らそれでも人間か！ 貧しく弱い人びとを助けなくて、果たして人間といえるのか？ もしかしたら、いやそれが人間なのかも知れない。嫌な世の中……と、偉そうに原稿を書いたが「のじれん」は事務所の家賃を5ヵ月ほど滞納している。ぜひ、カンパを……。

（はらだ・りゅうじ／のじれん）

【支援カンパ送り先】  
郵便振替…00160・1・33429 「のじれん」